

# 事実を知り、伝え、 共に行動を！

昨日の7月30日(水)、今年度の原水禁世界大会・日本母親大会に参加される方々の壮行会が行われました。

核兵器廃絶運動の中心である広島に行くことで、核兵器を取り巻く世界情勢や原水爆禁止運動への理解を深めることができるよう、たくさんの方々のことを、見て聞いて吸収してきます！

ずーっと行きたかった母親大会に参加させていただくことになりました。勉強してきたことを、皆さんに広めていこうと思います。



横田院長より



参加される皆さんには、行って学んだことや経験を周囲の皆さんに広めていただきたい。今、ガザ・パレスチナ・イスラエルでは子供合わせて1100人以上が亡くなっています。今後日本人が紛争地に行って戦いを手伝うかもしれない、日本のコンピューターが兵器として、パレスチナの人を殺す間接的な手助けをする、そういったことも皆でもう一度勉強しなおしをしましょう。参加される皆さんには、私たちが何をすべきなのか、感じたこと・学んだことを、皆に広めていただきたいと思えます

今年の原水禁世界大会は、来年開催されるNPT核不拡散防止条約再検討会議の突破口となる大会です。ニューヨークの国連で行われる国際会議に、また青森保健から代表を送り出しましょう！



西脇副院長より



## 6/26~28 辺野古支援・連帯行動報告



6月26日~29日、全日本民連の第32次辺野古支援・連帯行動に参加し、高江や辺野古などに行ってきました。辺野古の座り込みのテント村に、私たちは座り込み運動が始まって3722日目に行きました。5時間の座り込みと海上調査を行いました。座り込み運動の最中にも、米軍の海兵隊が淡々と上陸訓練を行っており、空には轟音を轟かせながらオスプレイが飛んでいました。辺野古のおじいやおばあもお金で揺さぶられていて、現地に巨額なお金が投じられているそうです。思いやりが必要なのは、米軍ではなく日本人なのではないでしょうか。今回の支援で戦争をとて身近に感じました。何のための憲法9条だったのか、罪のない人を殺す戦争で解決できる問題はあるのか、と思いました。経験してきたつらい戦争が過去のものになっており、いま日本は変わろうとしています。私たちに何ができるのか。現地に足を運ぶことはできなくても、全国でできる活動はいっぱいあります。まず知ること、そして伝えていくこと、常に目を向け、常にあきらめず行動に移すこと。命をまもる仕事をしている民医連職員として、この活動に参加できたことは、自分にとってとてもいい経験になりました。ありがとうございました。

